

講義名	対)19～日本語総合 A /15～日本語基礎　【留学生科目】				授業形態	
担当教員	小野　勝	開講期・曜日・時限		前期 金曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生	ナンバリング
主題と概要						
大学生活を送るための基礎的な日本語能力を身につける。この授業では、日本語の文法項目について、基本的なものから日本語能力試験上級レベルのものに至るまで、幅広く意味や使い方を学ぶ。また、文法知識を学ぶだけでなく、実際の日本語でのコミュニケーションや作文でどのように使われるかを考え、様々な課題に取り組むことを通して、実際の生活の場面で応用できるようになることを目指す。						
到達目標						
授業で扱った文法項目の理解だけでなく、運用能力を身につけ、日常生活でのコミュニケーションや大学での学習に対応できるようになる。様々な場面において、日本語で自分の意見を伝えたり、課題を解決したりすることができるようになる。						
提出課題						
毎回、授業のテーマに即したワークシートを配布するので、指示に従ってそれを完成させる。						
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法						
ワークシート、宿題、小テスト等は添削して返却する。参加者の多くに間違いが見られた問題に関しては、再度解説を行う。						
評価の基準						
授業中の課題達成度（20％）、小テスト等（20％）、中間の理解度確認（20％）、期末の理解度確認（30％） 授業を5回以上欠席した学生については、成績評価の対象から外す。						
履修にあたっての注意・助言他						
毎回の授業で出席をとる。 授業中の私語及びスマホ等の不必要な使用は慎むこと。 日常的に予習、復習を心がけ、日本語に触れる環境を意識して作ること。						
教科書						
. 使用しない。						
参考図書						

その他		
プリント資料等は必要に応じて配布する。文献は適宜指示する。		
授業計画		
第1回　授業の説明（授業の進め方、スケジュール、評価の方法、注意事項） 第2回　対象を視覚や感覚でとらえ、それに対する印象を送る表現を学ぶ 第3回　自らの行動の理由を送る表現を学ぶ 第4回　一つの事件を受け、その方、または双方について評価する表現を学ぶ 第5回　自らの感情、感覚がどの程度であるかと送る表現を学ぶ 第6回　「ない」を二重用いた、二重否定による曖昧さを含んだ意思表現を学ぶ 第7回　強い意思をもって自らの行動や相手への忠告を送る表現を学ぶ 第8回　中間の理解度確認 第9回　ある行動から導かれた結果が良い場合、悪い場合のそれぞれの表現を学ぶ 第10回　複合動詞を用いて、その行動がどの段階まで進んでいるかを送る表現を学ぶ 第11回　時間や場所の範囲を定め、ある物事がその範囲内のどこに位置するかを送る表現を学ぶ 第12回　その結論に至った理由を強調する表現を学ぶ 第13回　ある状況を仮定して、その時に発生が予想される事柄を送る表現を学ぶ 第14回　一方の状態の変化に含ませて発生する、もっ一方に見られる変化を送る表現を学ぶ 第15回　期末の理解度確認		
授業形態（アクティブ・ラーニング）		
○　ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間		
当週に学習した項目について、理解に時間を要した部分を中心に復習し、次週の小テストに向けて準備をすること。（120分程度） 学習内容の定着を図るため、発話練習や文作成練習などを行うこと。（120分程度）		
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連		
物事に自ら進んで取り組むことができるようになる。 自ら目標を設定し、他に依存することなくそれを成し遂げることができるようになる。 課題発見・課題解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・整理し、解決できるようになる。		
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述		
実務経験の有無及び活用		
備考		